

群馬県歯科口腔保健推進委員会（平成30年度）議事録

開催日時：平成30年7月10日（火）  
午後7時00分～午後8時40分  
開催場所：県庁29階第1特別会議室

○出席者（敬称略）

【委員】（50音順） ○：会長

- |        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 石原 隆   | 群馬県学校歯科医会専務理事                 |
| 井下 泰伸  | 群馬県議会厚生文化常任委員会委員長             |
| 入山久美子  | 群馬県歯科衛生士会専務理事                 |
| 金井 孝行  | 群馬県歯科技工士会会長                   |
| 木下 樹   | 群馬県立小児医療センター歯科・障害児歯科部長        |
| 栗原 修一  | 群馬県保健所長会（太田保健福祉事務所長）          |
| ○佐野 公永 | 群馬県歯科医師会地域保健担当理事              |
| 須田 孝也  | 群馬県国民健康保険団体連合会（群馬県保険者協議会事務局長） |
| 玉井 久美  | 群馬県栄養士会副会長                    |
| 中西有美子  | 群馬県介護支援専門員協会高崎・安中支部長          |
| 中林 亜衣  | 群馬県重症心身障害児（者）を守る会理事           |
| 樋口 早苗  | 前橋市健康増進課課長補佐                  |

【幹事】

- |       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 藤巻 敦  | 健康福祉部児童福祉課長                    |
| 歌代 昌文 | 健康福祉部地域包括ケア推進室長                |
| 中島 高志 | 健康福祉部医務課長                      |
| 平井 敦子 | 健康福祉部介護高齢課長                    |
| 小林 啓一 | 健康福祉部障害政策課長                    |
| 小林 信二 | 教育委員会健康体育課長<br>（代理：学校保健係補佐細井稔） |
| 津久井 智 | 健康福祉部保健予防課長                    |

【事務局】

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 中村多美子 | 健康福祉部保健予防課感染症対策主監   |
| 古沢実知也 | 健康福祉部保健予防課次長        |
| 大竹 薫  | 保健予防課疾病対策・歯科保健係係長   |
| 石田 圭吾 | 保健予防課疾病対策・歯科保健係歯科医長 |
| 石川 博美 | 保健予防課疾病対策・歯科保健係主幹   |
| 角田 澄子 | 保健予防課疾病対策・歯科保健係主幹   |

○欠席者

- 川島崇委員（群馬県医師会副会長）、大村悦男委員（群馬労働局健康安全課長）、  
山田和幸委員（群馬県保育協議会副会長）、横尾聡委員（群馬大学大学院医学系研究科口腔顎顔面  
・形成外科学講座教授）

○議事

1 開会

2 あいさつ（保健予防課長）

3 委員及び幹事紹介

自己紹介（名簿順）、（会長あいさつ）

4 議 事

（1）群馬県歯科口腔保健推進計画の評価及び現状と課題

（事務局）

- ・群馬県歯科口腔保健推進計画について説明

（事務局）

- ・群馬県歯科口腔保健推進計画における県の取組、目標について説明
- ・第1次計画の推進状況の評価について説明

（2）第2次群馬県歯科口腔保健推進計画（仮称）の策定について

（事務局）

- ・第2次群馬県歯科口腔保健推進計画（仮称）の策定について
- ・計画における歯科保健医療の取組概要（骨子）
- ・第1次計画における個別目標達成状況と第2次計画改定案

（会長）

まず、「歯科口腔保健の推進に関する条例」についての提言という資料があるが、この件について説明をお願いしたい。

（委員）

歯科口腔保健の推進に関する条例は議員発議条例の一つであり、昨年歯科についても特別委員会を設置し、今後留意して欲しい事項として資料に記載の6項目について提言をした。

（会長）

この提言も踏まえ、協議をすすめたい。

第2次計画策定の趣旨としては、現行計画と基本的な部分の変更はなしでよいか。（意義なし）

続いて、計画骨子については、現行計画を少し整理しているが、各委員皆様の分野を通じて意見等ないか。（特になし）

この計画案については、まだ時間的余裕はあるか。

（事務局）

今日示した案はたたき台であり、当委員会での意見を反映させていく予定である。

（会長）

各ライフステージごとの指標について、各委員から意見を頂きたい。

(委員)

「高校3年生で定期的に歯石除去・歯面清掃を受けている者の割合の増加」が新規項目となっているが、この年代で自身の健康観をもつことは、歯周病と全身疾患との関連もあるので大変よいと思う。教育委員会の方で何かアンケート調査をとるなどして把握する予定はあるか。

(事務局)

健康体育課で歯科口腔保健に関する委員会を開催しており、ここ数年は思春期の歯周炎対策について議論している。

昨年の委員会でこの概念を指標に入れたいという提案をしてきた。可能であれば教育委員会で調査頂ければ大変ありがたいと考えているが、未定である。

(委員)

4・5歳児の調査について以前調査をした際、(保育所・幼稚園の)歯科健診票が統一されていなかったということがあったと思うが、就学前の4・5歳児は重要だと考えるため、この調査を県が実施してくれて大変良かった。

他のライフステージについて、もう少し読み込み、持ち帰って会の中でも検討したい。

(会長)

事務局は歯科技工士を計画の中にどのように入れるか、考えがあるか。

(事務局)

指標として何かというのは難しいが、現行計画及び保健医療計画の中に歯科技工士という文言は入っている。何かいい案があれば委員の皆様伺いたい。

(委員)

当会は補綴物を作る立場であるため、介護施設などで、どれだけ補綴物がきちんと機能しているかについて調べることは可能ではないかと考える。持ち帰り、更に検討してみたい。

(委員)

多職種連携のところでは歯科医療が提供できる体制づくり等、指標ではないが記載できるのではないかと。

(委員)

乳幼児において、3歳児のむし歯のない児の割合を増加させるとあるが、全体で見れば減少傾向の中、(むし歯が)ある子は重症なむし歯であったり本数が多かったりと、格差が広がっている印象である。重症の子をできるだけ少なくしていく取組が必要ではないか。健康格差について調査できる指標を取っていったらいいのではないかと。

障害児者に関しては、県で定期的な歯科検診を行っているかなどを調査しているが、保険診療の範囲内で診療なのか健診なのか、健診だと行政側が予算をつけないと実施は難しいと考えるが、どうか。

(事務局)

在宅歯科診療をしっかりとやってくれるところを増やして行く方法と、健診事業として実施していく方法の2つを想定している。

(委員)

健診のやりっ放しにならないように、医療や歯科保健指導につながるようにしたいと日頃から話している。今の時点で、健診と保健指導セットで考えていかないと5年後達成はなかなか難しいのではないだろうか。

(委員)

(歯科口腔保健については)市町村が直接的な事業を実施しているため、県としては市町村が実施するにあたっての技術支援等をしている。歯科口腔保健の推進においては情報発信していくことが大切。ボランティアの活用は大切で、特に若い人たちに対してはSNS等も活用して情報発信をしていくといい。若者世代に感心を持って頂き、活動して欲しい。

(委員)

特定健診・特定保健指導の実施率が上がってこない中では難しいところはあるが、特定保健指導で歯科の実施率を上げるといった目標を掲げてもいいと思う。歯周病と糖尿病などの全身疾患との関連などもあるので、予防にもつながってくると思う。

(会長)

(情報提供として)特定保健指導については、4月から歯科医師の実施については要件が緩和された。

(委員)

食育や栄養といった考え方が必要ではないかと思う。正しい姿勢でよく噛むことを推進している。食後の歯磨きを実施している学校は多いと感じる。歯科衛生士等と連携して栄養士も参画していきたい。

(会長)

栄養士と連携した咀嚼嚥下機能や食育の取組など推進していきたいと考えているので、具体的な指標でなくてもいいので、是非どこかに記載をお願いしたい。

(委員)

80歳で20本以上の歯を持っている人の割合の増加について、半数を超えて達成となっているが、要介護高齢者に当てはめたらもっと少ないと思う。要介護高齢者の歯の喪失防止を推進し、よく咀嚼できる口腔にしていって欲しい。また、かかりつけの歯科医を持つ人や歯科検診実施率の増加などの指標を入れて欲しい。

歯科口腔保健推進ボランティアの育成ということで、ヘルパーや介護職員でも口腔のことを理解していくことは必要であると考えます。地域包括支援センターで実施する介護予防教室などでオーラルフレイル予防の体操などをすれば、ボランティアができる予防活動なども広げられるのではないかと。

(会長)

県歯科医師会では毎年、口腔ケアワーカー養成して、ケアマネや介護職員等を対象に1日の講習会を実施している。また、サポーター養成講座ではオーラルフレイル予防の話をしている。

県議会の提言の1にある「一人暮らしで在宅療養している高齢者の歯科口腔保健の実態を把握し、効果的な対策を推進する」とあるが、これについては歯科医師や歯科衛生士だけでは把握することが難しいので、こういったことを含めて、より一層連携を深めていきたい。

(委員)

障害児者の分野で新規の目標指標が2つ示されているが、どちらもニーズが高いと思う。障害児者においては知的・身体・精神の手帳の保持者も年々増加しているため、各分野の障害に対して円滑に治療や予防が受けられるといいと感じる。

二つ目の「摂食嚥下機能支援を実施する施設の増加」であるが、県内にいくつか大きいところはあるが、地域にないのが困る。1時間かけて前橋まで通院するなど親としても大変な部分があるため、ニーズは高いのではないか。

(会長)

県歯科医師会でも障害児者の対応ができる歯科医師の養成研修を行っているが、数が少ないと感じている。今後も推進していきたい。

(委員)

歯周病検診について、受診率に関する実態を取り入れて欲しい。

また、「市町村等の歯科関連事業に参加する住民ボランティアの増加」という項目が新規で追加になっているが、ボランティアを活用した事業として、具体的な事業の想定があったら教えて欲しい。

(事務局)

介護予防事業としてのオーラルフレイル予防などを考えている。協力頂けるのであればよろしくお願ひしたい。

(会長)

様々な意見が出されたが、事務局は意見を計画案に反映した形で検討頂きたい。

### (3) その他

(事務局)

- ・策定スケジュールについて
- ・意見照会について

(会長)

計画に対する意見等あれば、事務局へFAX又はメールで提出頂きたい。

## 5 閉会